

グラス底ボート

沖縄の海をユニークなクジラ型ボートで、ゆったり海中散歩を満喫!

# ひとり親 子ども未来 プロジェクト

# ふれあいバスツアー

このプロジェクトはブセナ海中公園、琉球村、ビオスの丘、結515の協力で運営させていただきます。

★主催：ATMAアジア観光外語学院

★協賛：株式会社セブン-イレブン・沖縄

★後援：一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー

【開催日】

2021年7月11日(日)

【ツアー代金】**無料** 【募集人数】120名様  
含まれるもの：乗車料・昼食代(弁当)・各施設利用料

【注意事項】

- ・沖縄県内在住者ひとり親世帯限定、お子様は小学5・6年生のみ対象となります。必ずお父様またはお母様のご同行をお願いします。
  - ・1組お父様またはお母様1名様+お子様最大2名様までとさせていただきます。
  - ・インターネットでお申し込み後予約確認メールをお送りします。そちらに母子または父子家庭手当の証明書を添付または写真を貼り付けてご返信ください。
  - ・定員がございますので、必ず事前予約をお願いします。
  - ・当日はマスクの着用をお願いします。
- 乗車時の検温、手指消毒にご協力お願い致します。
- ・座席は予約順でこちらで指定させていただきます。
  - ・当日の道路状況により、各施設の順番が異なる場合があります。
  - ・交通事情により時間が多少前後する場合がございます。
  - ・台風など悪天候により、中止になる場合があります。

【予約受付】

株式会社セルリアンブルー

旅行業(沖縄県知事登録旅行業2-274号)

TEL:098-941-6828(8:00~13:00)



【対象】※沖縄県内在住/ひとり親世帯

小学5・6年生限定

【予定スケジュール】※各乗車地10分前集合

9:15 県民広場前出発

(県庁正面玄関口前にある広場)



10:10 ATMAライカム校出発



琉球村 見学&昼食



ビオスの丘 湖水観賞船



ブセナ海中公園 グラスボート体験



16:30頃ATMAライカム校到着



17:30頃県民広場前到着

QRコード

WEB予約にて受付中!

セルリアンブルー 沖縄

検索



## コスト構造の改革に着手 フロンティア精神で 新分野開拓へ



「20年度は厳しい状況だったが、緊急避難的な経費削減効果もあり増収増益を達成できた」と話すのは、JR九州エンジニアリング（福岡市）の師村博社長だ。今年度はコストパフォーマンスを立ち上げ、コスト構造の改革に着手している。具体的には、より収益性の高い新幹線や地下鉄、機械設備事業やJR以外の一般工事分野への人員の配置換えなどを実施。来年度から始まるJR九州本体の中期経営計画にマッチするよう準備を進めているという。

昨年末、前身のケイ・エス・ケイ設立から50年を迎えた。師村社長が社の歴史をたぐって認識したのは先人たちのフロンティア精神。そのDNAを引き継ぎ、新たな分野でも営業を強化していく。既に鹿児島市中心部の再開発ビルの空調施工管理を獲得、福岡市内の複合商業施設整備にも参加する予定だ。師村社長は「売れる技術を積極的にアピールし、業績向上につなげたい」と力を込める。

## ひとり親世帯の小学生を対象に 開講した無料の英語教室好評価



アジア観光外国語学院（那覇市）は5月下旬、ひとり親世帯の小学生を対象にした無料の英語教室を開講した。開講した理由を二宮徹社長は「食糧や物資の支援も素晴らしい。しかし、子どもたちの将来に向けて教育の機会を提供することが、語学学校を運営する私たちの使命だと感じたから」と説明する。

その上で「より多くの子どもたちに英語を学ぶ機会を提供し、世界に通用する人材を輩出する場になりたい」と意気込みを語る。

来年3月まで毎週1回開催される教室の運営は、県内企業からの協賛金で賄う。今後は、那覇市以外でも開講する計画がある。開講時には2社が事業の趣旨に賛同し「お声掛けした複数の企業の中にも、前向きにご検討いただいている企業がある」という。二宮社長は「新型コロナウイルスの影響がある中でも、多くの企業が事業に高い関心を示していただいている。子どもたちのためにも一生懸命に汗を流す」と気合十分だ。

## 地域企業のSDGsへの取り組みを評価・支援する



ふくおかフィナンシャルグループは今年4月、地域企業のSDGsに関する取り組みを支援する100%子会社サステナブルスケール（福岡市）を設立した。藤善匡社長（福岡銀行産業金融部長兼務）は、「地域企業の取り組みを適切に評価するものさし」をつくって経済価値を算出することで、地域企業

の取り組みを支援していきたい」という。ものさしというのは、自社の取り組みがどのくらいの価値を生み出しているかを数値化したもの。銀行では通常、財務データを元に信用度をスコアリングしているが、これに加えてSDGsの取り組みがバランスシートや損益計算書にどう影響しているかを分析・評価して、包括的な企業価値を弾き出す。

藤善社長は「地銀による取引先企業のSDGsの取り組み支援は、だいぶ広がっているが、取り組みの是非の判断・評価基準まで提示するのが当社の特徴。それによって企業の成長を支援したい」と話している。